



鼓童特別公演2018「道」 血沸き、肉躍る。

新潟県佐渡島を拠点とし世界的に活躍する太鼓芸能集団鼓童。今回の作品『道』は、古典から新作に至るまで、約半世紀の間受け継がれた作品群の中から、選りすぐりの曲で構成された鼓童にとって根源的な内容です。演出は京都造形芸術大学の卒業生で現・鼓童代表の船橋裕一郎さん。公演に先立ち内容を京都芸術劇場 統括プロデューサーの館野佳嗣が伺いました。

2018年6月16日(土) 13:00

会場：春秋座

演出：船橋裕一郎

演出補佐：池永レオ 遼太郎

太鼓芸能集団 鼓童：

山口幹文、齊藤栄一、見留知弘、中込健太、蓑輪真弥、小松崎正吾、三浦康暉、池永レオ 遼太郎、大塚勇渡、米山水木、小平一誠、木村佑太、小野田太陽

●公演情報の詳細はスケジュール一覧〈P.8〉をご覧ください。

—— 2016年に鼓童結成35周年を迎えられましたがいかがですか？

船橋 いやいよ次の一步を踏み出す時期に来たと思っています。現在、鼓童は20〜60歳代まで各世代の演奏者が揃っています。ですが世代が広くなると同時に、これからは第一世代を知らない若い層が沢山入ってくることになるんです。そういうことも含めて、真価が問われる時期にきたと思っています。また、お客様も鼓童はこれからどうなっていくのかと注目して下さっていると思うのです。

そういう意味で今回の『道』という作品は、鼓童に脈々と受け継がれてきたものを基調として、自分たちの原点を振り返る舞台になると思っています。

—— 芸術監督の坂東玉三郎さんの任期が2016年に終了しましたが、玉三郎さんから得たものは大きな財産になりましたよね。

船橋 本当にそうですね。舞台に対する考え方など随分、教えていただいたと思います。と同時に私はそれ以前の鼓童の舞台も体験できた世代なので、そういう意味では色々なものが融合し

て私の身体ができてきているんですね。ですから今回、「自分が培ってきたもの」「先輩から受け継いだもの」をしっかりと「後輩に繋ぐ」という使命も感じながら作品を作りました。

—— 昨年も『道』を上演されましたが、その時の演出は演奏者の石塚充さんでした。もう、幕開き一曲目からガツン！と打ちのめされました。今はどんな舞台になるのか楽しみですが、それに古くから在籍しておられる山口幹文、齊藤栄一、見留知弘さんも出られます。内容は決まりましたか？

船橋 大体、決まりました。今はそれを磨く段階ですね。今回は今までの鼓童の舞台で必ず演奏していた『モノクローム』『三宅』『屋台囃子』『大太鼓』も行っているので、練り込む作業が大変、重要になると思っています。

—— 鼓童にとって原点となる曲ですね。

船橋 そうですね。そういう自分たちのとつての「軸」となる曲を大切にしたいと新作などを作るときにブレるんです。年末には演奏者の住吉佑太が新作を織り込んだ『巡—MEGURU—』と

『道』について

本公演『道』は、前身の佐渡の國鬼太鼓座時代（1971～81）も含め、約半世紀の歳月をかけて継承したものを基調に構成されます。

鼓童にとって古典ともいえる舞台のなかから「型」を抽出し、鼓童のDNAを次代に継承します。

私達は『道』のような継続性のある公演を通して、新たな創造活動に向けた礎を確かなものにしていきたいと考えます。

私達の奏でる「太鼓」という楽器は、叩けば音が出るというシンプルな楽器です。しかし、その音や響きは、複雑にして多彩、ひとつとして同じにはなりません。

打つ人間も当然、身体、年齢、背景など、それぞれの個性を有します。

そのような楽器、そして様々な打ち手が、日々の鍛錬のなか、呼吸を合わせ、音を追求し、奏でる音の表現は、言語の壁を超え、人間の本能を揺さぶり、多様化する社会に与える影響は、可能性に満ちています。

私達は、自然の恵みと豊かな歴史を併せ持つ「佐渡」で舞台を創り出し、日本各地、世界各地に太鼓の音を届け、より多くの人々に共感と共鳴の輪を広げて参ります。

演出：船橋裕一郎（鼓童代表）



「この鼓童ならこういう解釈をするという試みは常に考えていきたいと思っています。」

——『モノクローム』は聴く人によって様々な色が見えてくる曲ですからね。船橋 そうですね。「スタンダードな曲」「作曲家に依頼した曲」「新曲」と鼓童としての3つの要素を大事にしたかと思ってるので、ヴァリエーション豊かな公演になると思います。もちろん新しい試みもします。次に進むためには新しい挑戦は必要ですからね。

——変わった楽器は使われますか？船橋 まだ内緒です（笑）。でも1990年代初めの曲で、CDで聴

いていてずっと面白いなあと思ってる曲があるんです。それで先輩に「舞台でやったことがあるんですか？」と聞いたら「特別な舞台で何度かやったぐらい」といわれたので今回、やってみよう。

——ここ最近、鼓童の中堅処が立て続けにお辞めになって、どうなるのだろうかと思っていたのですが、昨年の『若い夏』や『打男』で若手がとても頑張っているのを見て、ああ、引き継がれているなあと思いました。

船橋 自分たちがこうして舞台を踏める環境があるのは先輩たちの頑張りがあったからこそ。ですからこれを預かって

次の世代に継ぐことが大切な役目だと思っています。これまでグループとしては前に進むことだけを考えていたと思うんです。ですが、これから三、四世代になってくる時、きちんと次に繋ぐのが僕たちの使命だと思っています。

——まさに、この舞台は鼓童の根幹ですね。これを基調にこれからの『道』を先輩が受け継ぎ、ずっと一本の『道』が続いていくということですね。舞台、とても楽しみにしています。ありがとうございます。

次世代に継ぐことが大切な役目だと思っています。これまでグループとしては前に進むことだけを考えていたと思うんです。ですが、これから三、四世代になってくる時、きちんと次に繋ぐのが僕たちの使命だと思っています。

——まさに、この舞台は鼓童の根幹ですね。これを基調にこれからの『道』を先輩が受け継ぎ、ずっと一本の『道』が続いていくということですね。舞台、とても楽しみにしています。ありがとうございます。